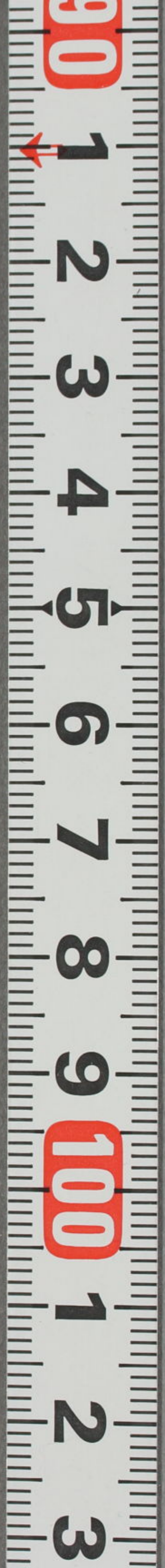




三十二年
三十二年

早稲田大学図書館
文書 27
B 72
1





北豊島郡高田村大字五歳町
千七百二十号地
野原三三

鳥井政三
地

成
成
成

北豊島郡高田村大字五歳町
千七百二十号地
野原三三

明治卅年二月廿日
二二二
大海船

三十年助記

英照皇太后陛下御大喪参列
被命日記

貴族院議員宮島誠一郎

皇太后高太皇太后

丁酉二月廿日

年前三時起頭

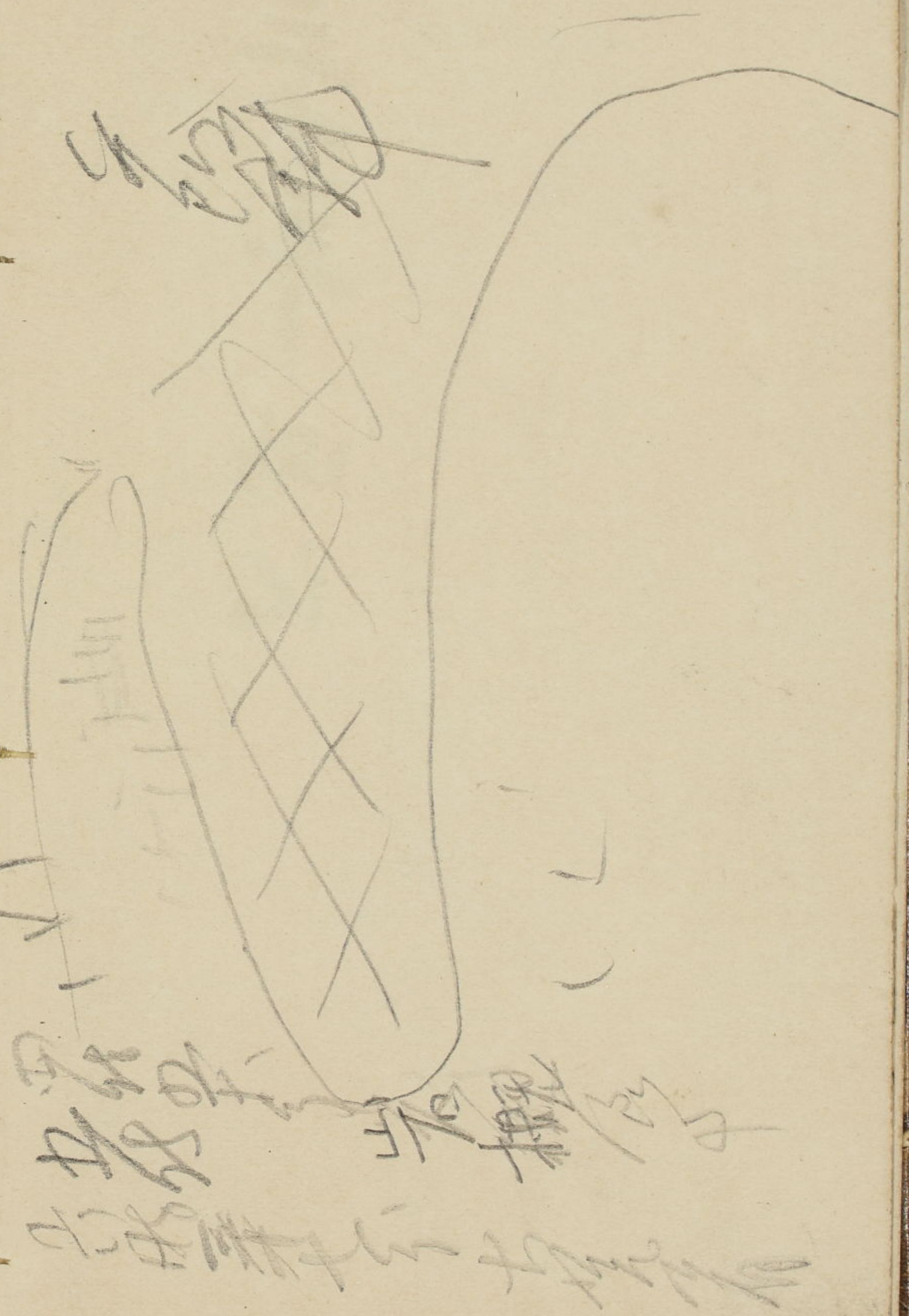
五時三十分出山 鈔抄

中書議事 果以貴族院十七名

債切 大八百三十市 視三四坡道素

山北 鞏固 名在屋 念可買

名古屋日暮七時 停車場午後十時



着
孫
家
子
人
國
文
言
學
母

六日晴 古風 三十七

昨夜白曉大已看功

於風 入之 乾

四 坤 解 志

四 坤 解 志

馬 伯 原 時 疏 出 師 志

中 立 實 宜 於 實 大 表 儀 子 務 所 志

一 參 引 考 疏 志

一 三 十 七 四 七 十 四 餘 強 考 日 志

花 白 口 讀 紅 外 之 參 引 考 心 行 書 日 志

詞 金 木 屋 三 案 此 以 月 楊 之 考 考 志

此 考 志

歸途長崎日新舊御所一廻
幸町と本居町三條長政萬石
之宮の午飯水の山鴨水
各里をうり
御道松坂高き宮のり

一 幸町五丁

朱印 二輛

一 幸町

二 香

一 幸町

朱印 二

一 幸町

朱印 二

一 幸町

あり五條坂下清水観音養徳
守気風神事
六舟渡り
五條坂、陶器師

一 幸町

朱印 二

一 幸町

朱印 二

一 千九百
一 三 〇 〇

車夫の賃
清水の賃

二 四 共 家

同宿坊の長崎の日の晩は和歌

和歌の
和歌の
和歌の
和歌の

七 〇 〇
和歌の
和歌の
和歌の
和歌の

長崎一本道
和歌の
和歌の
和歌の
和歌の

一 拾 金

一 五 十 四

白 金

一 三 十 四 二 十 五 〇

和歌の
和歌の

一 十 〇 〇 〇 〇

和歌の
和歌の

午後大禮
和歌の
和歌の
和歌の
和歌の

和歌の
和歌の
和歌の
和歌の
和歌の

直禪 寺の防犯の事あり

午後三時 馬車片有誤り

午後四時 二十分 招合を仰一 大禮殿前
用

午後五時 長政 豫引 二時 一人 力二人引

午後六時 出立 四條堀 五時 出立 估見街 大佛

午後七時 三十三 同 雲角 下車 寺
長政と同行 寺 直宗 中子 候 御前

午後八時 柳屋 申 参列 卷を弄

午後九時 休 泉所 あり 共 衆 御院 寺 分 光

午後十時 休 息 五時 三十分 寺 十時 前 寺 分

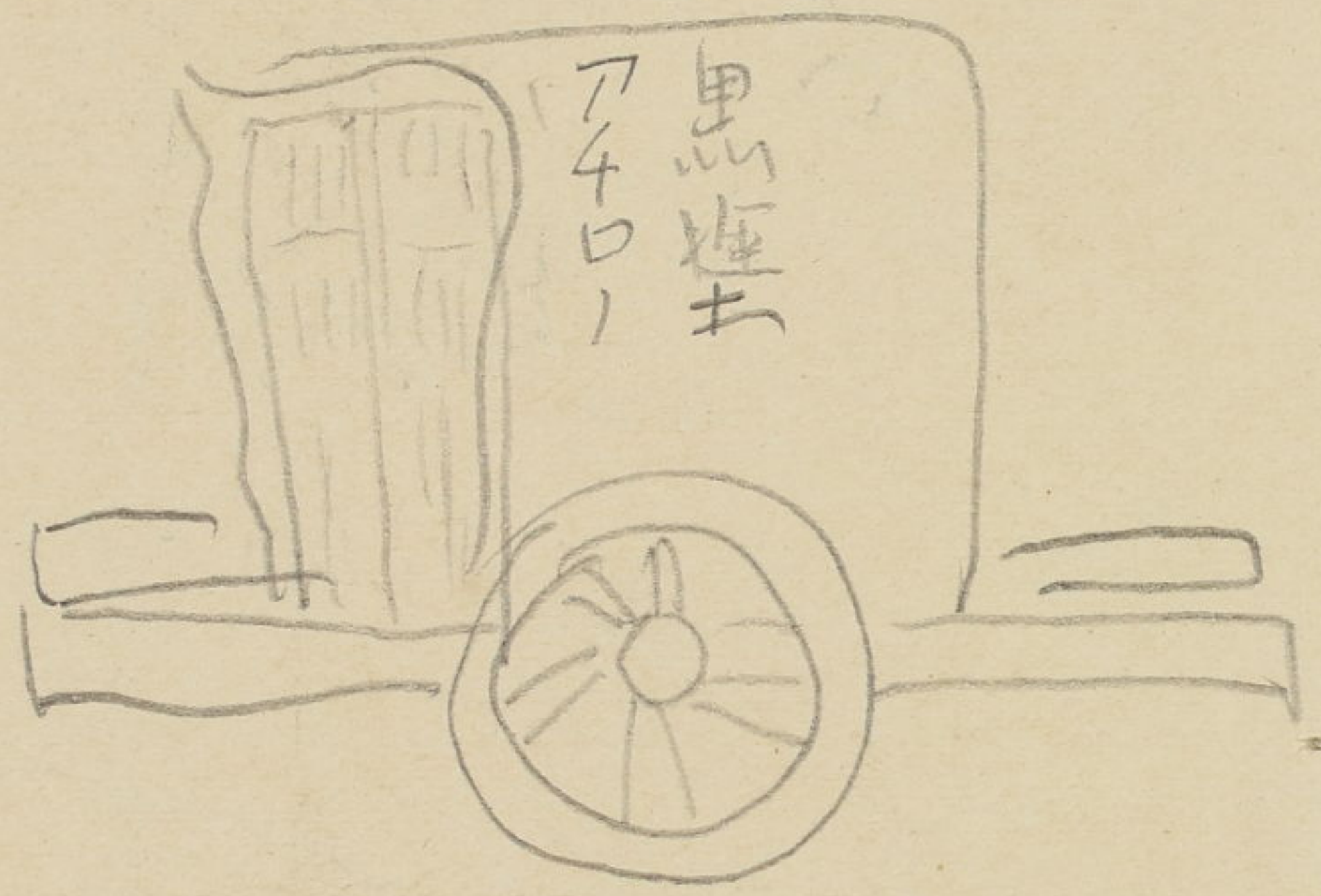
寺 休 村 心

午後十一時 雲 櫃 あり 寺 十時 候 後 月 輪

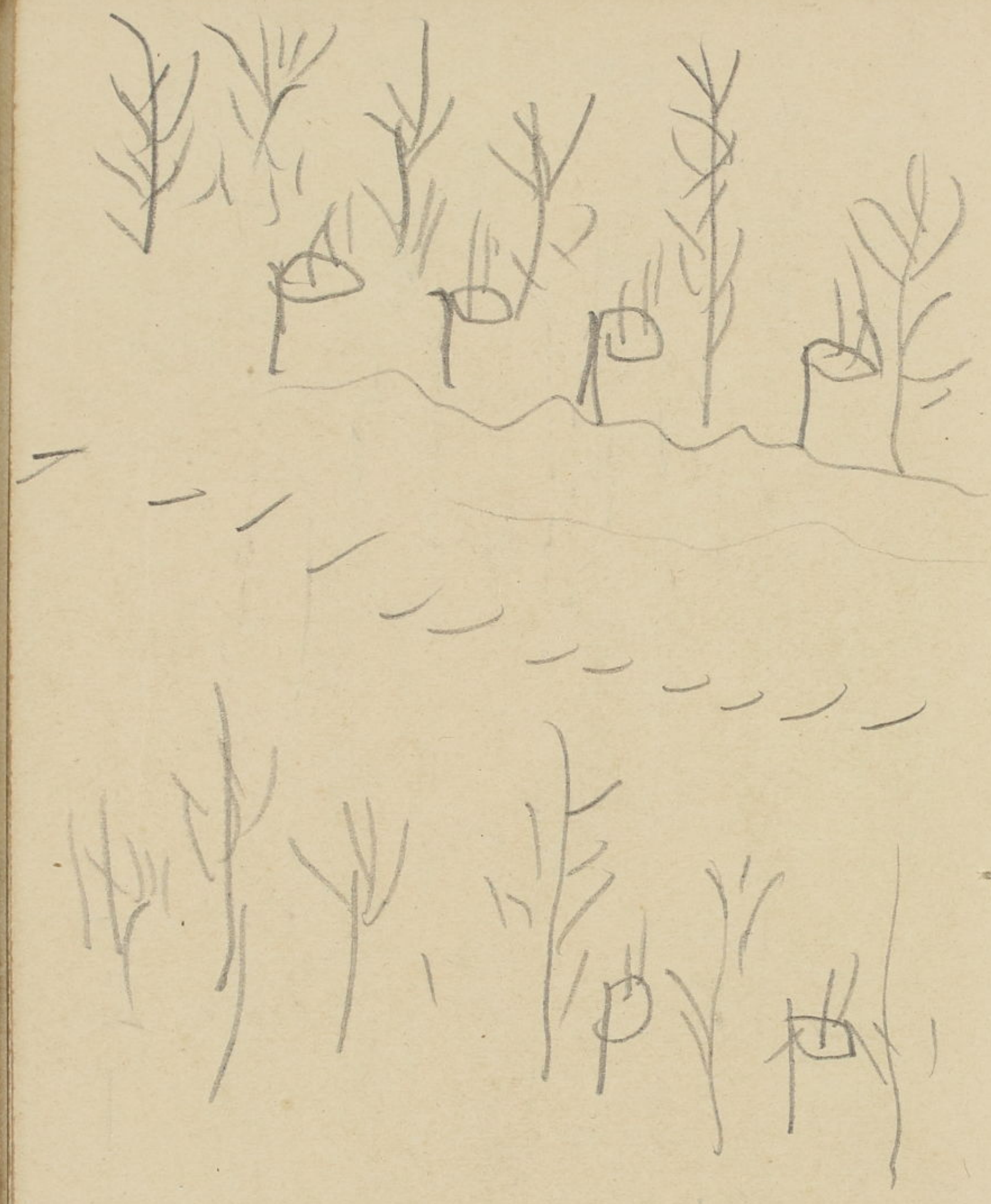
午後十二時 寺 牛 車 七時 候 御 典 あり 寺

寺 休 心 寺 奉

了中務官長月元之休名礼より成行佛山
 子洲金中一條路右折白柳丁第大
 七徳き電機救柜為思し海客
 海客船を海路の右子有大車
 其より有山門及登り一敷町之衛端
 子
 子



黒山煙土
 74口1



萬物皆有情一物一靈人各有事

三十五年思舊遊
誰謂新來人共兄弟
來來
解江南為路橋
山陽紫院樓
鶴毛
父化登西
の筆

古の流事
七
あり
長
遊
別
の
有
年
清
く
良
き

被
皆
方
十
時
以
所
習
及
多
指
馬
臨
市
來
謝
之
心

九
時
風
定

年
前
少
時
孝
子
目
免
ぬ
家
傳
本
滋
お
武
の
書
也
造
り
て
也

午前四條通留小路九世の
半端物と書す

木倉町水月橋を訪む
午飯見送り
午飯見送りの橋
東山を眺め
観水

来り井草一帯を
女侍出て
六〇〇の観
色お山
水と書す

先づ川を
小川、野、
茶室、石、
風、田、

梅園と
中庭の
茶室、石、
風、田、

西京雜記

十日時か一日

午刻の時の

しよの調子

午刻の時の

しよの調子

しよの調子

しよの調子

子云及為飲七氣濟車坊
運水
中若滿甲七的亦十分出
古海山隨已脈下點長
水比附山の事也
平の神氣かかると
印

考長片一重片割机之流
強(冊)坊出以し交山の由
成(後)原今人山行能
山(香)景日ん
大(法)年境見
明(牙)水堂の北下
解

車と待合也大磯平塚七尾
厚木沼子の有次子中盛人様
濱形忠元さん
新橋角可祝 坂本 巡子
浦島子
女子と知れぬ 子
女子と知れぬ 子

十

九月三十年二月十日自西無内家

二月十日
御禮
御下

愚問の答

寒香梅ハ、舊録多シ、十七年一月

以、男、園、丹、知、吹、取、着、也、4、5、6、7、8

西、枝、繼、木、ニ、三、葉、キ、4、5、此、梅、共、身

精、キ、仰、精、ル、以、吹、帝、國、賽、亮、

光、條、子、見、此、六、葉、以、吹、帝、國、賽、亮、

○、國、際、軍、知、保、障、也、

ハ、カ、ル、以、吹、帝、國、賽、亮、

ハ、カ、ル、以、吹、帝、國、賽、亮、

直、一、根、ニ、十、葉、目、ノ、之、4、山、魁、

一、百、ハ、70、ハ、カ、ル、以、吹、帝、國、賽、亮、

直、三、丈、ヲ、リ、種、一、知、カ、ル、以、吹、帝、國、賽、亮、

庭兒

千眼寺

西御教

田伯

大...

三...

下...

...

...

...

念ふにふか

我々も同じく思ふ

子も同じく思ふ

母も同じく思ふ

はなはた

たつた

若くは

子も同じく思ふ

と

故地自中書

第九議會之花咲く
散るるも

○今由豫算ハ身負層云ハ三百万円モ

削減云ハ本層ハ義長モ云ハ一俵

御七能ク政府上懐集キ成ホセリ

○大隈外相ノ演説ハ徳又世評カ

○北豊 由ハ若者進出ノ云ハ

二十九年一月者 翌

二十八年三月迄

黒田、實者梅嬢知吹云云

三千年

二月三日

日く毛少天

甘言の故と云

成へき也

予ハ一名

素の

甲

福田

守方

林内
守方
守方

人
守方
守方
守方
守方

河山縣の可然の世の初評し
た山縣の可然の世の初評し
横花の殿し河山縣の大使
す本末のあつる自分一切山縣
此の世の49付し河山縣の
職の殿し河山縣の大使
大使の殿し河山縣の大使

河山縣の可然の世の初評し
た山縣の可然の世の初評し
横花の殿し河山縣の大使
す本末のあつる自分一切山縣
此の世の49付し河山縣の
職の殿し河山縣の大使
大使の殿し河山縣の大使

遇の始に西遊必しといふ者及有る也
我々の昔年平太右衛門白老の
考考中と云ふ事本野一郎公使
式部卿所由也他は他山のも
都の古く之うかきとて天竺都
也

政海と今の河野中一郎自筆
と脱書三考其考了る引説考也
高人の此考大解は是れ自筆也
其年其方不毛也
九議合の考は地理の考
附録の考は地理の考
附録の考は地理の考
附録の考は地理の考

前園、新道、山崎、此レ、
懐古、下、山崎、三、
山崎、大、山崎、の、
近況、山崎、の、
神、山崎、の、
河、山崎、の、

大、山崎、の、
松、山崎、の、
幹、山崎、の、
す、山崎、の、
大、山崎、の、
大、山崎、の、
大、山崎、の、
大、山崎、の、

之と及し防はまゝ大隈の如く
其境を出て皆もあつた
薩摩守 柏田 堀内 堀内
是れ才接はるるは其年の初
又の松方とて 實は松方
多量の国を治るるに 附くは自
物の人をたて置たり 固くは
お

姻戚とてあつた 頭足
自由とて 軍勢を 徳と
兄強た 印代 大隈の 恩と
却る 松方 古丈 隈子 因親
松方とて 情の 入 自 然 金力
知力とて 松方 あり
唯 松方 あり 大隈 あり 四 あり

家計不始為を好しと山本
の富饒を乞ふの譯せしむる
事一書ありはとて入るる中
誠曰く大山曰く日知一金如
くしやう金一十に方い大臣職の
人といまたよみしひげ次

昔の暇せりといへり
思ふにはるる影射ありの會
不亦の徒い昔よりあはれは
中このお成

高麗

南

一

十

子

子

三月十日

此

二

是

國

後

也



八十二
鈴木重吉

甚濟録

一千五百五十四

此の事ありて徳意し姑々三十萬株
お對し應者人七十家株のり之物

之を其株者お對し七家由
此の權ありて之を分たぬ
之を此の權ありて之を分たぬ
之を此の權ありて之を分たぬ

備後を仰ぐ田地は今了物之
稻理橋赤い田半々、利多し然
外海危険し城を、長保殿又

ハ東山寺の徳利を、誰七入社
是れ、多分、何と七集利
流氷を、ま、ヨ、ル、

光臨く、六、米、の、利、
は、保、好、を、保、好、と、
上、幾、分、の、利、益、也、
揚、力、を、見、白、お、
揚、力、を、見、白、お、
揚、力、を、見、白、お、

中標の如き及為の如き
姑の如き七中標入り
唯の如き金庫の如き株の如き
流の如き金庫の如き仍の如き
得の如き金庫の如き

三十年九月

口税の如き金庫の如き
三の如き金庫の如き
大の如き金庫の如き
女の如き金庫の如き
三の如き金庫の如き
社の如き金庫の如き
社の如き金庫の如き
社の如き金庫の如き
社の如き金庫の如き
社の如き金庫の如き

河松と成爲第一物當りし事
吉井一萬五ヶ方田持主大久保の事
田持の物言ふ

先年大久保利和、九鬼前田と共口
南米へん銀山出廻り、昔思ふ買見は
大久保の家此より三條山尾の肥後
特別に賜金十五萬圓、今日有る所

木林園、如リムロス子も是れ取ら出せ
モト、異へは、大匠、昔昔考へて
南洋、北見、島、金山、ト、岩本
子、名、出、下、手、モ、ん、と、自、分、無、事
小、牧、も、も、忠、告、の、後、行、り、し、事、不
以、大、下、換、宝、と、事、三、月、大
借、財、と、事、大、久、保、兄、不、ト、フ、事

利談ニ米ツヤ又トウミラ鹿見島人
へ理財ニ拙キヤ

短小の存蓄ヲ黒田の何の曰大為

ハ決テ妻ナリ御ハサレのあり以兄弟多

クお母の世ヲ考ラユコニライイ授与せん

留ハ宅妻ナリハハヤテラシクハシ

キ此の存蓄益せんとして却る減あり

三十年四月十九日 輝山(瑞)記

内務省方官一昨の御事午後
下町迄早急路面各九、雨天中十
日、出陣日、是、海、是、尾、御、山
同、朝、日、統、御、人、民、之、和、心、好、御、事
或、人、竹、根、子、根、地、民、之、和、心、好、御、事
中、官、物、(根)子、根、地、民、之、和、心、好、御、事
新、(根)子、根、地、民、之、和、心、好、御、事
班、(根)子、根、地、民、之、和、心、好、御、事
の、(根)子、根、地、民、之、和、心、好、御、事

十七、洪水を以て此と歌ふ。十八、
三季の洪水を以て此と歌ふ。十九、
為害する作物を以て此と歌ふ。二十、
曲居、昔、業、工、昔、業、と、何、れ、と
求、濟、し、金、と、出、し、て、競、争、也
人民を以て此と歌ふ。二十、

十九、昔、業、工、昔、業、と、何、れ、と
求、濟、し、金、と、出、し、て、競、争、也
人民を以て此と歌ふ。二十、
十七、洪水を以て此と歌ふ。十八、
三季の洪水を以て此と歌ふ。十九、
為害する作物を以て此と歌ふ。二十、
曲居、昔、業、工、昔、業、と、何、れ、と

此世何處無道也
不道人民亦害
清亦不美多
作之毒清切
法如可也
事之

際千余句

古川布島之娘
婿之陪累
婿

此及内務有
原委之

事者之
事者之
事者之

一
角

山
田
鐵
藏

產
比
西
直
錫
部
成
日

昭
治
三
十
四
年
平
常
國
大
學
の
廿
七
書
表

其
の
年
近
即
自
動
機
力

其
の
年
獨
逸
國
留
學
三
十
年

傳
記

皇
室
藥
師
三
十
年
十
月
廿
七

大山の流子
の木向平の家
美原の彼子物信大氣物島田
園田の地を地物各皆書文
満子の書文を印し其内姓名
記
抄録
本の中務長神似

右の通りありしからん
大山のふもとに神を大山の
ふもとにサキ
踏踏印の跡あり

しんがのふもとに
しんがのふもとに

カトウ日

廿日十八歳申修の時
十リ今ヤ配人无死に
死

ス

子んいのこハ女
前年

しんがのふもとに

ハ十九台に通り
ハ十九台に通り
ハ十九台に通り

キレシヤ 兵強キヤ

兵ハ儘コ 八千人 弱ハモ 士ルコ 五十

萬人アリ

英國ノ海軍ニ年ノ伸ヒ 諸島アリ

所有セシハ 何年出ト ありとヤ

今ヨリ 二百餘年 徳川 五代ノ 頃ナリ

支那ノ 康熙 乾隆 頃ナリ

英國ハ 何處ニ 苦レテ 戦ヒニ 中 間

佛ニ スナリ 又 イスハ ンピナリ 若

露國ハ 如何

露國ハ 和 好ナリ 且 早 年 前 ナリ

失 平 和 ナリ 且 海 兵 兵 討 領

ナリ

西路ハ士ルコヲ古飲ノ宿帳立也
西路ハユニスタンチノボルコ古飲セニト知
志チ丈レハ澳ノストリヤ大反對ナリ
我國モ不承知ナリ我國西路ト高々藤ハ
ソウモ土身古ノ事ナリ如ル
喜望也山海ノ邊ニ立ルナリ塔ガルハ

英ノ領地アルヤ向
然リ沢山ナリ然レニト是ハ
蘭人ノスハニヤ人ハ英人ナリ
岳リ味レ故排所ナレタリ
地ハ半獨立ノ國ナリ
薩長日ノ貴國所院如何

一及幼七十回

岩下ニテ年頃子存母ヨリニ物事ト向ヒ曰ク大政
返上大政業ノテ外ニ三月九日ニ此多ク夜殿
アリテ南強セモ七の只ハ後藤ト城ト西人ナリ
今尚生存セリト云ケルニ難場ト云
ニ其ノキニ皆頭ヲ出スモナリト云ク少ク下セ
倫伯爵ノ人ナリト云ク不事トアリト見テ
庚子八月十日

イフクニ甘ク
水ノ流ルル所
天気物ノ報ノ即チ
モヤル
水ノ流ルル所
天気物ノ報ノ即チ
モヤル

○ 日本州湾一島ハ 英國領ナリト

夫よりサトウ東洋ノ形勢ハ如何ナ
トク得レシ膠州灣ノ如何
サトウ日ク其数カウ棒ナリ
ロアノ事ハ是非如何
サトウ日ク人ノ事ナハ他より善ニ悪ニトモニ評
シ難シ但シ我英國ノアノ様ナ事ハ為カス
口支月モ處ニカノ様ニ取ラレシハ将来如何
モカ
東洋ノ朝野ハ如何ナリ

昭々の事

サトウ日ク山縣サニノ者トシテ知ルモ何ナカラス
面白ク兵ハ皆者ナリニ信テ訓練スルナリ
然ラフコトハ彼財政ヲ私占メシテ日本ニ為ス
者ニラズ中ニ立ノ處ナリ入テ至極公平
ナリニシテ其ハ如何ニシテ将来ハ
如何ノ事ナリ物トハ如何ニシテ将来ハ
如何ノ事ナリ物トハ如何ニシテ将来ハ
如何ノ事ナリ物トハ如何ニシテ将来ハ

山石含金桂為祥

正經。副為考級。江藤考級。

中風。海陸考級。大雨考級。

聽。大久保考級。大隈考級。

外。山。西。兩。部。在。胸。中。

子。和。枝。植。別。心。以。後。故。初。

大。和。氣。新。記。

則。重。

國。事。一。

昔。朝。板。垣。兩。部。之。心。所。以。

今。出。掛。交。手。曰。貴。說。如。田。之。夕。乃。之。多。此。其。也。

四月廿五日訪大田

國ノ方領ハ一朝ノモノトシテスハ海ノ國トシテハ

外務卿三代七十年ノ事ヲ精選ス

ハ。ナ。マ。ニ。ラ。相。集。ノ。由。所。ナ

西國ハ傳ラズ位一越出テ人ハ二十四年人五六百島

又ニハ日本位一越出テ大抵四州九州陸先
位ニシテ

四月二十九日訪國外

イ。ス。ハ。ニ。ヤ。ノ。所。有。南。ア。リ。カ。ハ。米。國。ニ。シ。テ。ハ。時。々。メ。キ。シ。テ

ハ。バ。ニ。テ。民。リ。全。破。破。破。知。也。ニ。テ。其。ハ。通。人。勢

キ。タ。リ。ト。大。抵。イ。ス。ハ。ニ。ヤ。ノ。所。有。南。ア。リ。カ。ハ。フ。ア。ニ。シ。テ。後。ハ

虛。心。若。シ。ミ。信。望。ナ

ハ。東。西。ノ。件。ニ。信。州。山。程。ト。住。出。ノ。下。存。セ。リ

ヒリ。ハ。ヒ。ン。ハ。群。島。ヲ。結。テ。多。ク。ラ。ン。所。ノ。第。一。支。ト。シ。テ
シ。レ。ズ。宗

在酒村山縣... 後... 予

身... 予

伊知... 予

長... 予

日... 予

措... 予

意... 予

長... 予

道... 予

取... 予

伊... 予

國... 予

不... 予

長... 予

是... 予

中... 予

八
島川
甲
丁
十

九

一
鼓
甲
巡
行
十
五
十
五
十
五

一
日
飲
以
方
十
二
以
上

新
造
軍
艦

一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申

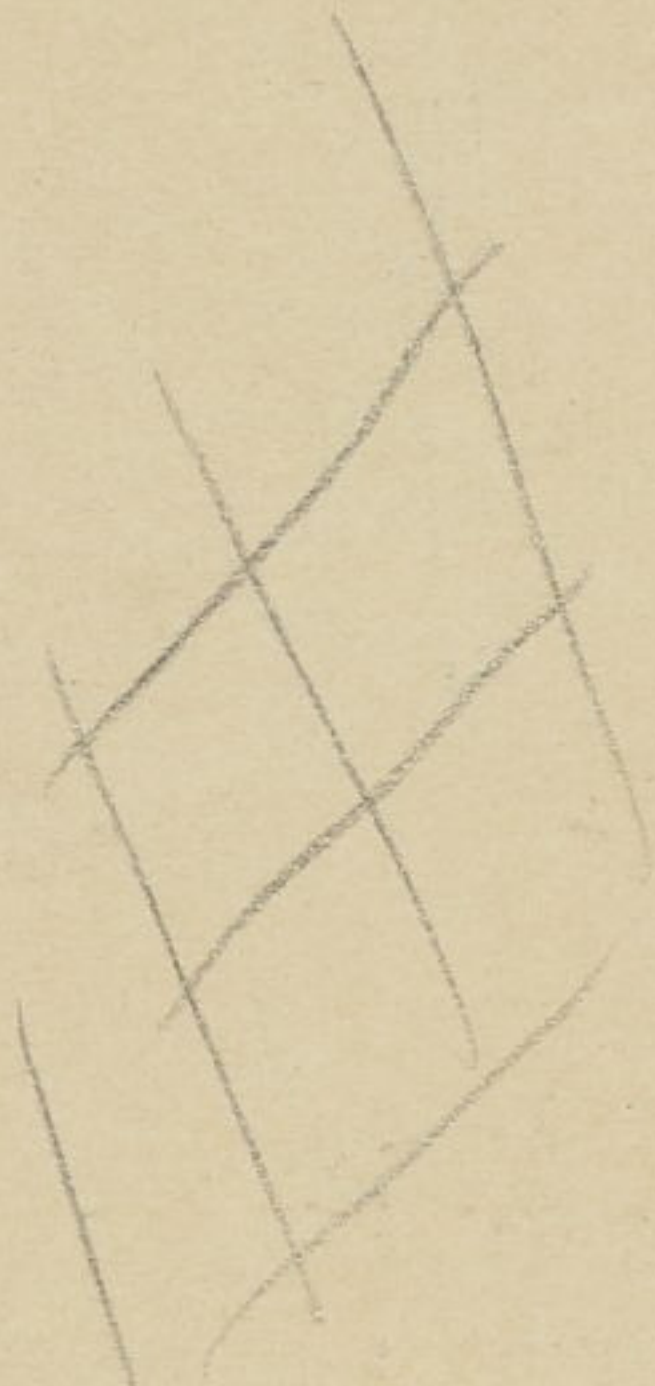
五 十 七
五 十 七

一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申

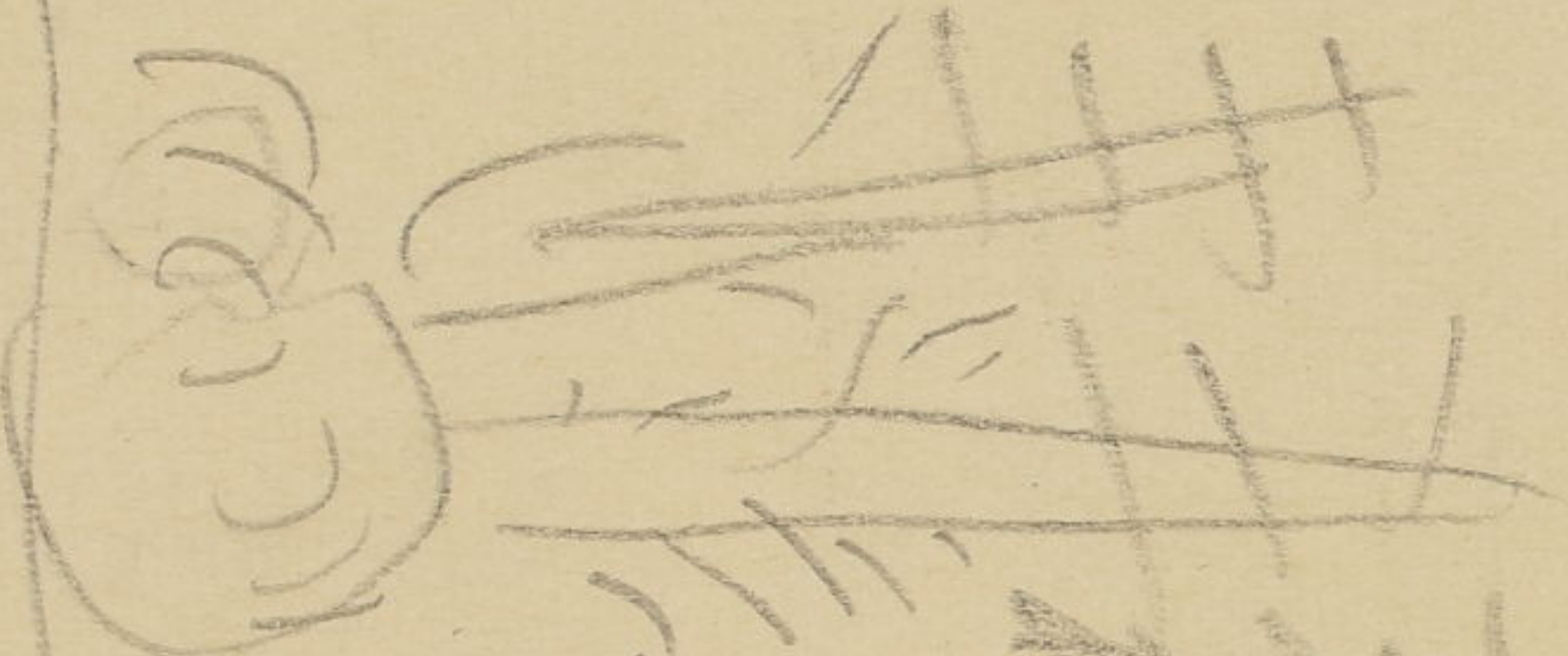
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申
一 物 申

Handwritten Chinese characters, possibly a title or section header, written vertically on the right page.

Handwritten Chinese characters, possibly a date or a specific note, located below the main text on the right page.



Handwritten Chinese characters at the top of the left page, possibly describing the location or context of the diagram.



Handwritten Chinese characters in the middle of the left page, likely providing a label or description for the diagram above.

Handwritten Chinese characters below the middle diagram on the left page.

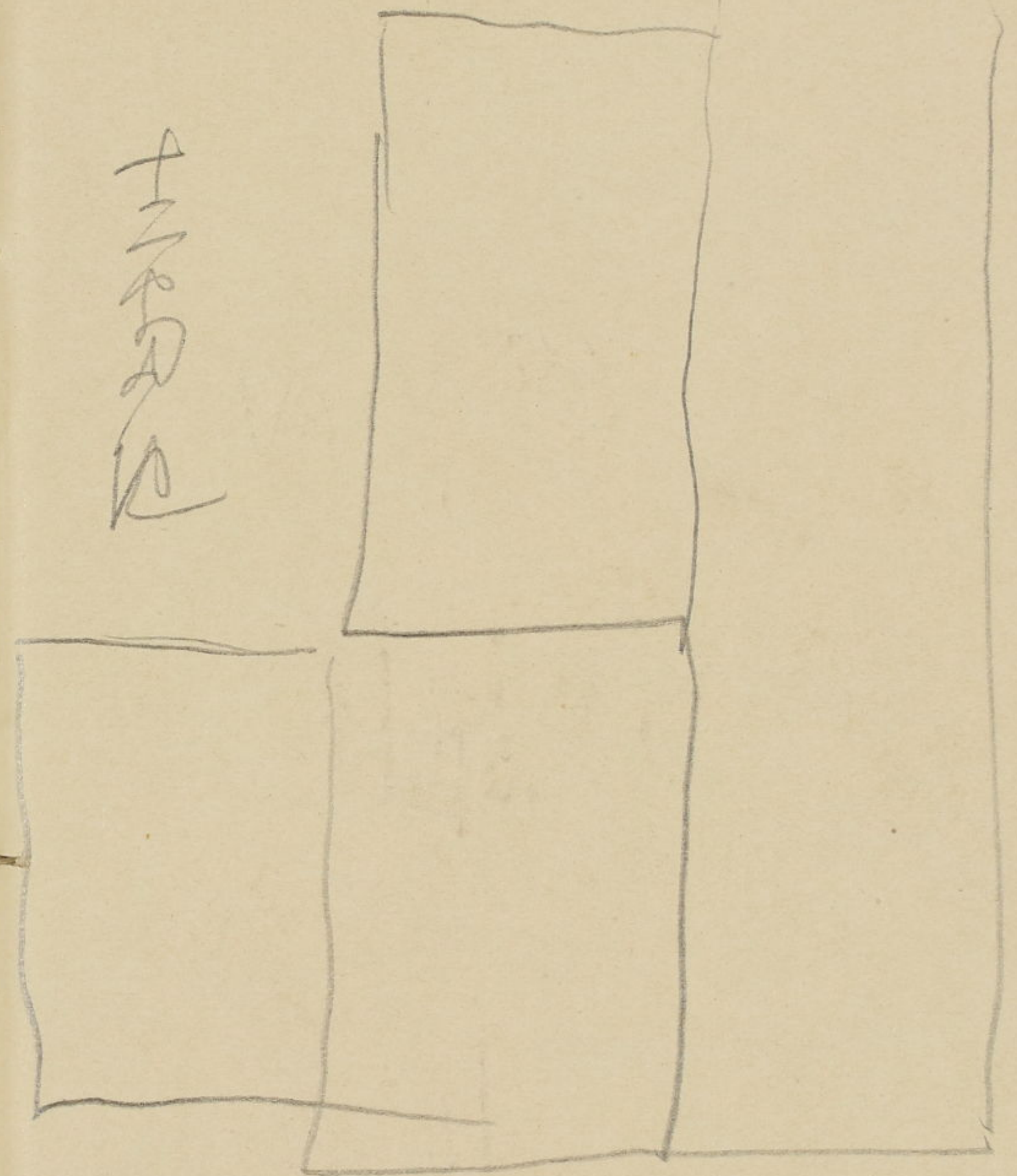
Handwritten Chinese characters at the bottom of the left page, possibly a concluding note or a signature.

湖 肉



一石上石上所入
一尺

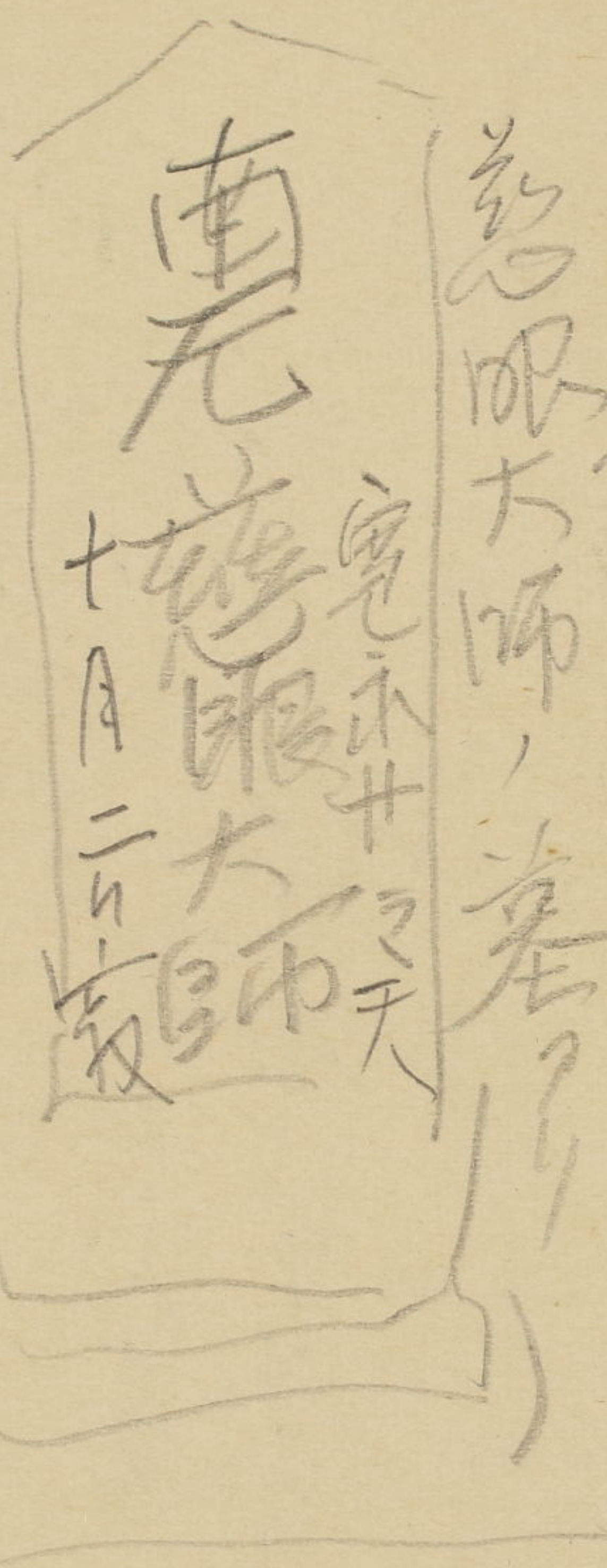
十三寸



戊戌四月十九日 越川越行
 午前土佐台電 越前町 午前坊前
 若原寺 大久保 中野 境
 国分寺 辻 坂 兼光
 小川 赤村 入野 松橋
 又向川 大塚
 川越 寺 寺

喜多院 寺内

慈眼大師 卷



南无 慈眼 大師

十月二十日

此寺 慶長 寺 寺 寺 寺 寺 寺
 公 爲 寺 寺 寺 寺 寺 寺

十月三日天海邊他為建右基此切 石基

石 知 氏州他波 中州他波

寬永十一年七月四日

從中下甲紫等

源松平氏光國

明曆二年七月四日 伊豆守

源姓松平氏信綱

元禄十一年午十月二十日

從四位下行大進信光時家系源

守原朝臣松平左衛門

右衛門

〇〇ノ時好花滿前 石造ノ五百羅漢アリ

吉保八柳澤 十一年

川野村内

天野村

古原

一上米

一中米

一上米

一中米

西之七年九斗

一斗

一斗

九斗

七斗五市相場

Handwritten notes at the bottom of the right page, including "一斗" and "一斗".

同の置物場

一上米八月一斗

一上米八月一斗

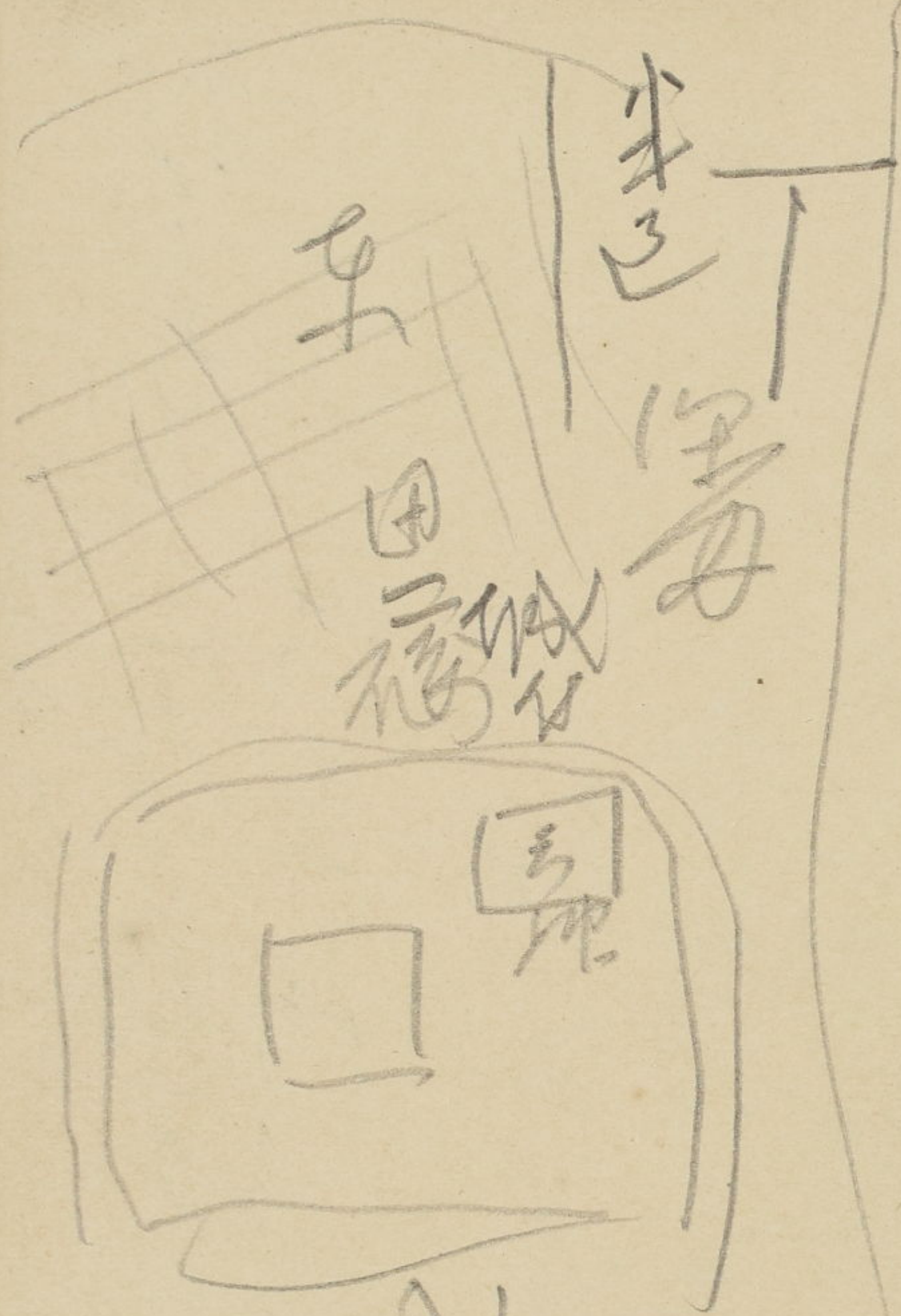
一上大豆一斗

一上大豆一斗

一上大豆一斗

一上大豆一斗

一上大豆一斗



東

田福城

米道
深

成...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...

...
...
...

十車

おらふ山本

代

大

三

下

三

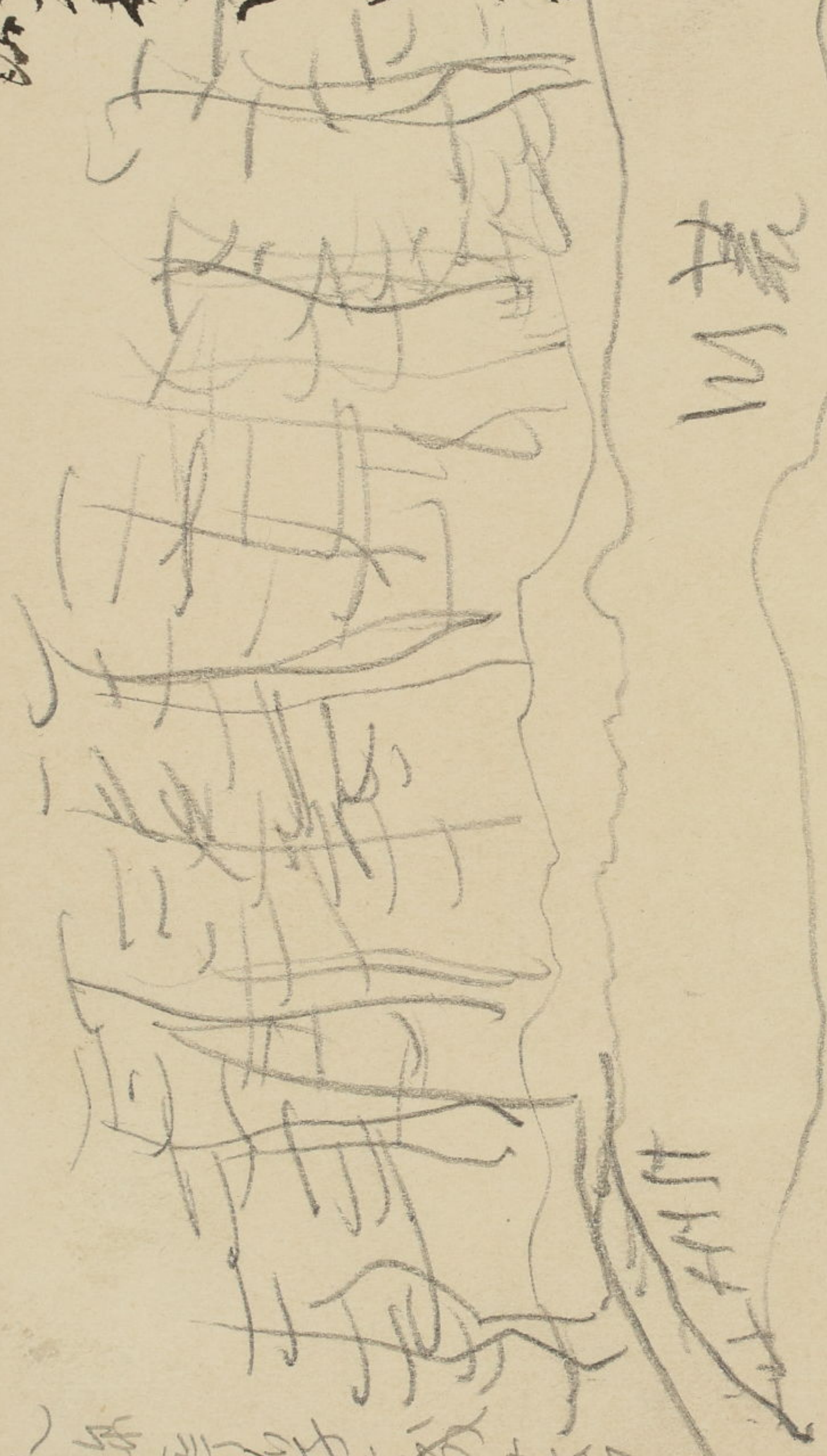
三

三

三

三

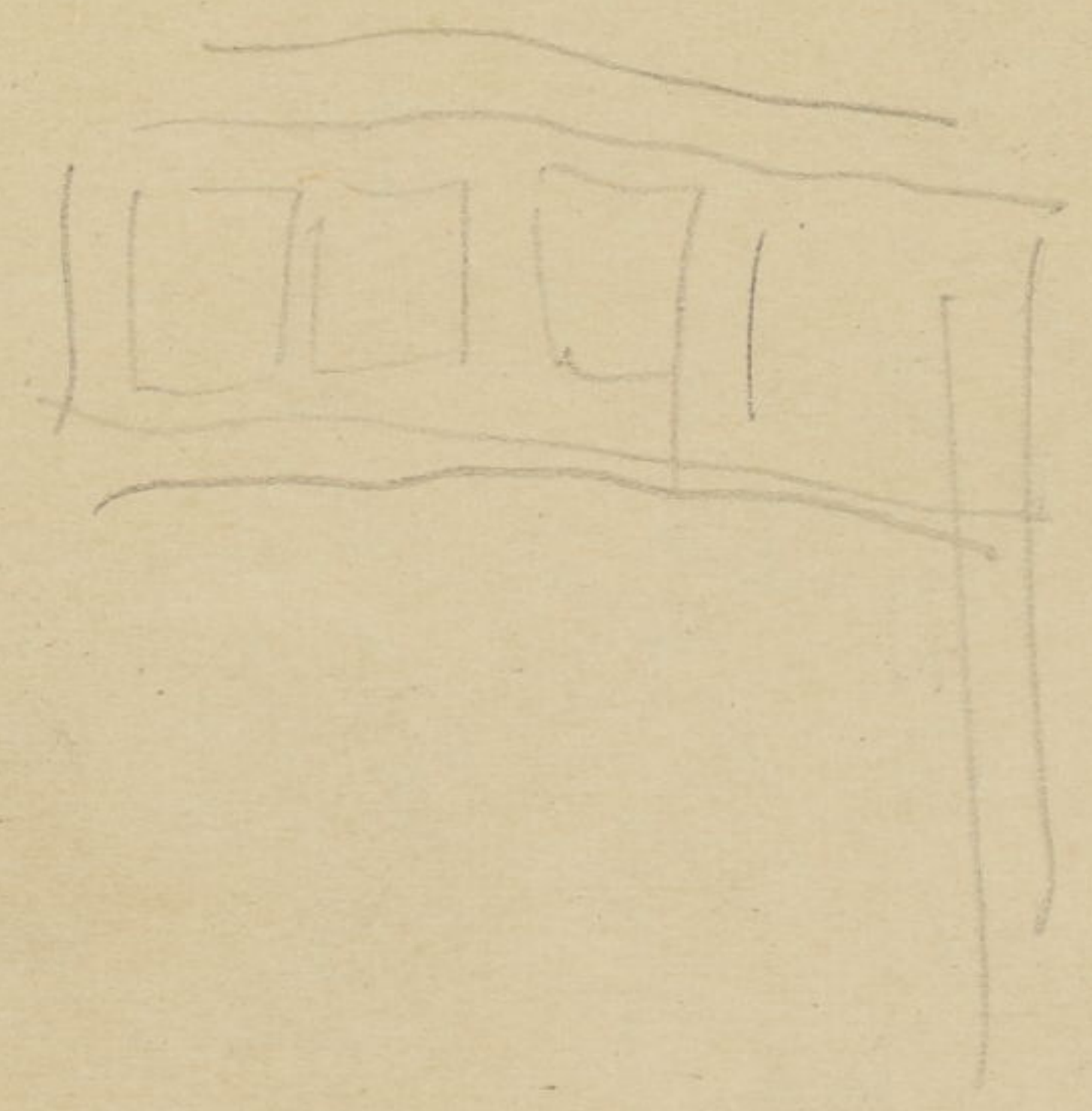
路名如土田之海，在



山麓

土人城

路名如土田之海，在

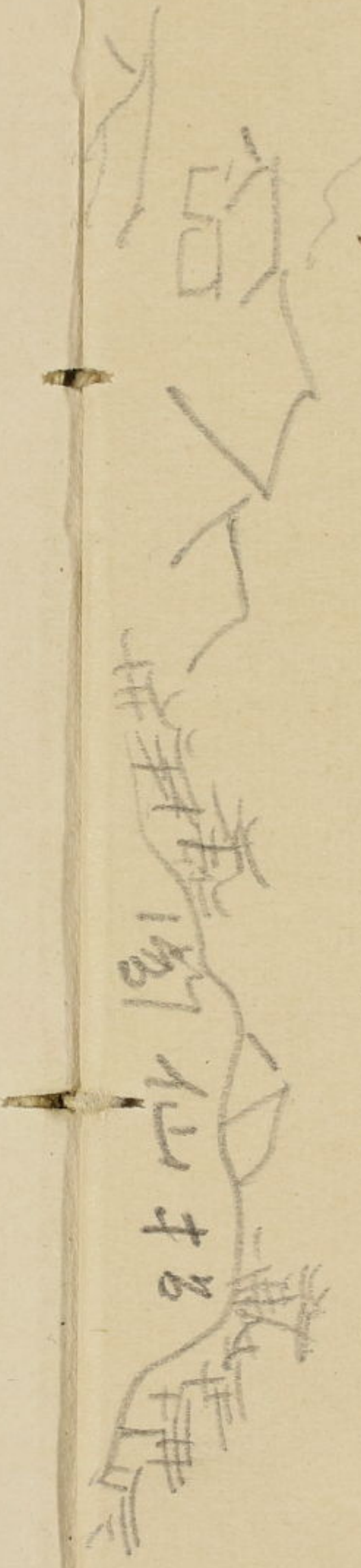


1875年 4月 14日

樂 師

國 一 軒 閣

17



これかきよく成り行く
 の言のまゝえ
 知事とておのまじら
 ちゅうん
 西野から



